埼玉

# 光る現場力

## 愛和病院

# 母子の産後ケアに重点

## 精神面も配慮、支持つかむ

埼玉県川越市にある愛和病院は2010年の分娩数が2700人と県内最多を誇る。病床数は50床で、国内でも有数の産科医院だ。少子高齢化や晩婚化が進むなか、産後の母子双方の医療や精神面のケアに力を入れる。グループで院内のサービスなどを企画するアイワメディカルサービス(同)の藤田博子社長は「出産や子育てのストレスの軽減に気を配ることで支持を得ている」と実績の背景を説明する。

天井から太陽光が注ぐ落ち着いた雰囲気の同院の健診センター。子どもたちがはしゃぎ回るなか、知り合いの母親や助産師、社会福祉士と話し合う母親の姿が目立つ。同院は通常よりもきめ細かく産後健診を実施している。なかでも2週間後の健診は出産プランに含めており、追加費用はかからない。9割以上の母親が受診する。

「母親は赤ちゃんを産んだ後1週間もたたないうちに帰宅する。その後1カ月も医師に相談できないと、どうしても不安が募る」。センターで母親の相談を受ける社会福祉士の内田緒織さんの実感だ。

センターには小児科や皮膚科、形成外科を設置しており、母子双方の健康相談を受け付ける。子どもの健康や発育状態はもちろん、母親は帝王切開の傷の治療や美容相談も可能だ。

同院が出産後の母親の精神面の安定などのために着目するのが母親同士のコミュニケーション。産後の病室で同じ部屋となった母親同士の健診時間を同じにするなど、自然におしゃべりできる環境作りを心がける。

健診センターの待合室では母子だけでなく父親の姿もみえる

**愛和病院の産後健診の流れ**

- 産後2週間後 …赤ちゃんの入浴や母乳についての相談
- 1カ月後 …母子の健康診断(母子手帳に記載)
- 2カ月後 …予防接種の計画など
- 3カ月後 …予防接種、母子の健康チェック
- 2歳まで定期的に健診

(注) □は同院が独自に実施している検査

内田さんは「待ち時間などに同じ悩みを持つ母親同士で話し合うのが最大の不安解消策になる」と強調。センターにいる保育士に育児などの相談も可能だ。同院の出産費用は3人部屋使用で50万円からと一般的なケースに比べてやや高い。それでも充実した産後ケアなどが口コミで広がり、利用者数は高水準が続く。

母親の支持を得るために木目調の壁や絵画などを取り入れ、ホテルや自宅で過ごすような雰囲気を出している。インターネットやドリンクサービスを備えたラウンジ、出産した母親全員が受けられるアロママッサージなども提供する。

センター内には高級服飾ブランドのマタニティー・子育て用品の専門店も入っている。「買い物を気晴らしや子育てへの楽しみにつなげてほしい」

藤田社長の娘は同院の医師。しかし、出産前には産後や子育てに対する不安を漏らしていた。藤田社長は「医師でも出産に不安を感じる状況をなんとかしたい」と感じ、1985年にアイワメディカルサービスを設立した。

独特の産後ケアが支持され、2人目、3人目も同院で出産する母親は多い。東京都内などからの利用者も増えているという。藤田社長は「お産にともなう負担やストレスを最小にすることで少子化の解消にも一役かいたい」と力を込める。

☎ さいたま支局 048-822-2580